

議 事 録

会 議 名	平成27年度 第3回寒川町生涯学習推進会議		
開 催 日 時	平成28年1月27日（木） 午後1時30分～3時30分		
開 催 場 所	寒川町役場 本庁舎 3階 議会第2会議室		
出席者名、 欠席者名及 び傍聴者数	出席者：鈴木委員、恵羅委員、菊地原委員、及川委員、細野委員、伊藤委員、 加藤委員、江島委員 欠席者：吉田委員 事務局：中島町民部長、芹澤協働文化推進課長、山口協働文化推進課主査、 白井協働文化推進課主事 傍聴者：1人		
議 題	協議事項(1)「寒川 学びプラン」第3期実施計画（案）のパブリックコメント実施結果 報告（案）について (2)「寒川 学びプラン」第3期実施計画の原案について (3)町の生涯学習推進について		
決 定 事 項	○議事録承認委員は、会長及び副会長が務めることを確認。		
公開又は 非公開の別	公 開	非公開の場合その 理由（一部非公開 の場合を含む）	
議事の経過	<p>1 開会 協働文化推進課長</p> <p>2 あいさつ 中島町民部長</p> <p>3 議事録承認委員の指名 鈴木会長、江島副会長</p> <p>4 協議事項 (1)「寒川 学びプラン」第3期実施計画（案）のパブリックコメント実施結果報告（案） について</p> <p>・事務局から資料1について、パブリックコメントの意見と町の考え方について説明。</p> <p>（委 員）この意見を出してくれた方へ個人的に報告は行わないのか。</p> <p>（事務局）町パブリックコメントの制度として、個別には行わず、パブリックコメント 実施結果報告を公共施設への配架とホームページで公表することとしている。</p> <p>（会 長）パブリックコメントの結果として2名7件という実績を町はどう考えるか。</p> <p>（事務局）労力を考えると少ないとは感じる。ただし今回4件のパブリックコメントが 同時に行われており、全体的に低調であり、学びプランだけが極端に少ない という結果ではなかった。</p> <p>（会 長）パブリックコメントは特定の人には熱心に意見を出すか、ほとんどの町民には 町のプランは読んでも意見を出す気にはならないのではないのか。素人にはわ かりにくい構成で、要約したものでもなければ難しい。もしくは町のやるこ とならば満足であるとも取れるかもしれないし、答えられないように町がわ</p>		

ざとそうしているのかもしれないが、パブリックコメントを行う必要性はあるのか。講座に参加する人などから意見を集め、反映させて行政の日常的な仕事に落としとしていく方が良いと考えるがどうか。

(事務局) パブリックコメントに意見が少ないことについては、パブリックコメントに対する町民の認知度が7%程度であったアンケート結果もあり、認知度を上げるためにも、今年度から自治会回覧をする取り組みとなった。パブリックコメントは町民が町政に参画を保証するための制度であり、このような会議で公募委員として町民が参画するのも一つの方法ではある。パブリックコメントを行う方法として、計画が固まる前に行うとか、パブリックコメントに変えて説明会などの方法も考えられる。パブリックコメントが少ないことをプラスとみるのか、マイナスと見るのか、関心がないことについては意見を出してくれる人は少ないとは思う。パブリックコメントはプラン策定のためだけではなく、まちづくりの整備基盤、ハードの面、町民生活に係わる密接な案件についても行う制度であり、一切不要だとは考えていない。パブリックコメントに意見が出しやすい方法を今後も検討する。学びプランについては、各課等において講座などの事業を行う時に、アンケートで参加者の意見は聴取できていると思っている。

(副会長) 意見のNo.1 とNo.4 の「町の考え方」の内容がわかりにくい。No.1 については、235 事業の理由の回答がないことやPDCA で回すことを触れてはどうか。No.4 は生涯学習の目的はまちづくりであるのか、という意見についての回答になっていない。

(事務局) No.1 は施策名 115 項目の下位に 235 事業を設定していた説明の追記と、No.4 については学びプランの目的を追記する。

(委員) パブリックコメントの意見が2名7件とはどういうことか。

(事務局) 1人は1件、もう1人は6件の意見を出された。なお、意見の分け方については、ご本人で6項目に分けて書かれている。

(委員) 委員になった当初は、プランを見て、事業数などから寒川町は熱心に生涯学習に取り組まれているなど感じたが、住民の生活にかかわる緊急的な用件と比べると、生涯学習は優先度が低いとは思う。意見にあるように肩肘はらなくても、自主的にやっていることは町がやらなくてもいい、という意見も重要だと思う。このプランを作った時に、寒川町は他の市町村と比べて、劣っていることがあれば熱心に取り組む必要はあっただろうが、とくに大きな問題が起こってなくて、世の中で生涯学習が流行ってきたから寒川町も始めたという程度であれば、町が何から何までお膳立てせず、自発的に出てきたものをサポートするのも大切なのではないか。

(事務局) 今回は実施計画の第3期目となるが、対象事業は基本計画の柱立てに沿って設定している。基本計画が生涯学習の学習テーマを細かく設定しているが、担当として重点を置きたいのは第1節、第4節、第5節のあたりとなる。基本計画をそもそも見直すという方法もあったが、15年計画の最終期の実施計画で、今回は事業数を見直し、計画がわかりやすくなるようにはしている。今回は町として力を入れたいところを重点事業とした。

(2)「寒川 学びプラン」第3期実施計画の原案について

- ・事務局で資料2について説明。平成28年1月21日開催の庁内課長級による生涯学習調整会議幹事会にて、意見のあった部分を追加修正した。
- ・パブリックコメントや幹事会でも意見のあった「協働」について用語の説明。

	<p>(副会長) 1 ページの寒川学びプランの目的は内容が目的になっていない。目的を書いてはどうか。</p> <p>(会 長) この内容は行政の経過説明であり、目的になっていない。4 ページに将来目標はあるが、文書の構成上、目的が先に書いていないのはおかしい。</p> <p>(事務局) 学びプランの基本計画の冊子を基に作成したが、こちらにも明確にプランの目的は書かれていない。将来目標の説明となっている。</p> <p>(会 長) 学びプランは何を目的しているのか出して、過去の変遷を先に出す必要はない。論文でも冒頭に来なければおかしいので先にもって来た方が良い。</p> <p>(事務局) 将来目標の部分と行政として生涯学習にとりくむ環境づくりをしていくということをも目的として加えさせていただく。学びプランの目的がプラン策定の目的となっているので、この部分を策定の経過とする表現としたい。</p> <p>(副会長) 「寒川 学びプラン」という言葉自体が浸透していないと思う。</p> <p>(事務局) プランそもそもの目的に触れた上で第3期を作ったというように変更したい。</p> <p>(会 長) 生涯学習はあちこちで行われているが、公民館の体制が平成29年度かなり変わるという話を聞いているが、その整合性について話してもらいたい。</p> <p>(事務局) 行政改革の担当者から正式な会議ではなく、関係する課の職員へのヒアリングが先日行われた。公民館を民間業者へ指定管理をするという案が検討されている。ただし、公民館という形式を維持するのであれば、公民館の目的としては地域で学習するための施設であるので、貸し館業務だけとなるのではなく、現在と同様に事業を行うことは変えられないという話はした。ただし、事業について、町職員が直接行うのか、指定管理業者が行うのかという明確な話までは出ていない。これまでの各地区の生涯学習推進員の活動を考えても、指定管理となったからそれを無くすということにはならないと考える。</p> <p>(会 長) 28年度中にほぼ決まって、29年度には実施だと私も聞いており、民間がハード面とソフト面を行うと聞く。このプランにあるように行政がきちんとリードしないと、業者まかせになってしまうのではないかと。全てを民営化することがいいとは思わないが、過去のどうしようもないものを見直すチャンスではあり、生涯学習を推進するチャンスではある。町民のほとんどがまだこの話を知らないし、ある日突然パブリックコメントがやってきても答えられないと思う。今から詰めていき新しく変わる形に持って行ってもらいたい。</p> <p>(事務局) 公民館の指定管理の話題は町の行革の一環で出てきていて、関係課で現在検討している段階であり、正式に公表はされていない。情報が入り次第、適宜皆様に情報提供していきたい。有料化にも関わることもあるようである。</p> <p>(会 長) 公民館利用者は高齢者も多いので、有料化はセンシティブな問題である。そういう大事なことはある日突然やってくる。意図的なのかもしれないが、大きな課題だと思う。ほかにいかがか。</p> <p>(事務局) 学びプランのパブリックコメントの回答と、計画の素案について、修正したものをご確認いただく流れでよろしいか。</p> <p>(会 長) 協働と生涯学習は違うという説明だったが、プランの将来目標に協働が入っており、違うとするには違和感がある。地域活動を活性化するというのは生涯学習活動だと考える。生涯学習は協働より遥かに広いカテゴリーを包含す</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

るものであるが、違うのではなく、寒川の財政が悪化している中で、シニアに限らず、協働により取り組まなければならないことが必須となってきている。そのような風土、精神的なものを創り出すのが、生涯学習だと思う。そのような町の姿勢もこの中に盛り込んで欲しい。学びを町に根付かせることが、地域の活性化につながるのではないかと。計数化はしづらいが、心意気は出しているとこのプランは輝くのではないかと。

(事務局) 将来目標に「協働のまち」とあるが、4 ページと整合性を合わせ、追加して表現する。

(会 長) 目標数値について、28 年度、29 年度の 2 年間で同じものばかりである。一概に増やせとはいわないが、疑問を抱くと思う。変わらないことが判断の基準になるということで、現状維持が評価となるのか。一般的な概念では通用しないのではないかと。数%でも数値は増えていかないとおかしいと思う。それでよいと思う仕事の姿勢だと疑われるのではないかと。

(事務局) 数値については、総合計画との整合性から同じ指標を持ってきている部分もある。

(会 長) 民間企業ならば苦しくても上げていく努力をしている。昨年と同じでは生きていけない。2 年間同じ数値であることは町の姿勢としてはありえない表現である。現時点は数値を入れているが、見直すと入れてはどうか。他の計画にあるから同じ数値を使うというのは最も卑しい方法ではないかと。

(部 長) ご意見いただいたことはもっともであると思う。今回は総合計画と整合性を合わせることも見直した点ではある。数値が上がっていくことは当然望ましいことであり、そのあたりでも内部の会議でこの意見を共有、意思統一を図らせて頂く。今回については総合計画とあわせたと、この 2 年は変わらなかったということでご理解をいただきたい。

(会 長) よろしくお願ひしたい。

(3)町の生涯学習推進について

(事務局) 今年度の 2 回の会議で委員の皆様からいただいた意見を、行政として改善できることについて、資料 3 にまとめて、内部の会議である生涯学習調整会議幹事会を通じて、関係各課へも提案させていただいた。

町の生涯学習を推進していく上で、今回が今年度の最終回ということもあり、町の生涯学習推進について委員よりフリートークで自由なご意見をいただきたい。参考までに、これまでの意見を大きく 3 つの項目に分けている。

(会 長) ではご意見いかがか。

(副会長) 私はこの委員を 3 年やっているが、今までの中で一番いい議題だと思う。町の生涯学習を進めていくために、どうしたらよいのかということ議論する場だと思って来たら、すでに決まっている書類について、良いか悪いかという議題ばかりなので、このようなのがないと良いと思う。皆さん全員にご意見いただければどうか。

(委 員) 私は子育て支援センターに居るが、子を持つ親は時間が作れるようで、作れない。とくに母親については参加したい内容のものがあるけれども、子どもが一緒であると参加できないことも多い。首の据わっていない赤ちゃんの頃でも託児ができて、堅苦しくないリフレッシュできる内容から、人間関係づくりができることもある。子育てをしている人達だけを対象とするのではなく、子育てが終わった人達にも今の子育ての現状を伝えられる内容のものがある

と良いと思う。孫が居る世代の方などはとくに昔と今では子育て事情がずいぶん違うことを情報発信していくことも必要だと感じている。

(委員) 中学校によっては土曜日に学校で講習会を開いていることもある。寒川中学校ではさかんに行われているようである。学校自体もそのノウハウがないので、そのような情報を得たいと思う。町の行事では学校に紹介いただいて行事ポスターなどを貼ったり、交通安全キャンペーンや道路の花植えボランティアなどに中学生も参加しているので、今後も参加を促したいと思う。

(委員) 大学も公開講座や図書館に一般開放を行っているが、もともと学びの場である学校に所属している学生は学ぶ機会があるが、行政が行う生涯学習というのは漠然としている。寒川町は規模が微妙で、コンパクトでまとまりがいいようであるが、大学のキャンパスほど狭くはない。いろいろな講座をやるにしても住民の勤め先はいろいろで町内に留まっている訳ではない。壮年期は活動エリアが広いので、地域での講座などには参加してもらえないのかなどは感じる。ある程度、退職後など年配の方は地域に還ってくることもあるので、住民協働などテーマを絞って考えていくと良いと思う。また町への帰属意識や参加意識をテクニカルな部分で工夫した方が良いのではないか。町民誰でも参加できることはオープンで良いことだと思うが、ある程度縛りを加えてメンバーシップのような形態にすると帰属意識も高まる。

(委員) 小学校に季節ごとに「すきっぷ」の配布があるが、子ども達は自分の地域の行事が見る事ができると、楽しみにしている。書き初め大会など学校が思った以上に子ども達は地域の行事に参加しているようである。子どもだけではなく、保護者が家庭内でそういう働きかけができていようである。「すきっぷ」を通じて家庭に情報が伝えられることは他の手段に代えがたいものがある。若いお母さん世代ではブログやメール配信のツールは有効だと思うが、シニア層は生活の中で情報を自分から得るといことは難しい。町の掲示板は今どれくらい機能しているか。

(事務局) 町内に 55 箇所あるが、駅前や人通りが多い主要な場所のみポスターを貼ることもあり、むしろ全箇所に貼る機会は少ないかもしれない。意外とポスターも効果があり、役場の公園側の角の掲示板は信号待ちの時に見るという意見をいただいたこともある。

(委員) 私もいつも通る所に掲示板があるので、よく見ながら、地域の行事を知ることがある。地域で生活している方が目につくことが有効であるので、公共の事業であるが、本当はスーパーマーケットなどにあるとより良いと思う。

(委員) 公民館の生涯学習推進員は受け手が減ってきていることが課題ではある。今年、センターは 14 名いたが、来年度は半分くらいが辞めてしまうこともある。行事もどのような内容であれば集客できるか考えるが、年度が変わってからでは遅いので、最近夏頃に翌年度の行事を検討している。やっても集客が少なかったりすることもある。前回の会議でもお話ししたが、公民館同士の横の繋がりがなく、各館どのような課題を抱えているかわからない。集まって話し合いをしたい。生涯学習は簡単そうに見えて、集客も、推進員のなり手も難しい。横の繋がりができて、中身も濃いものにしていきたい。小さな子を持つ保護者は公民館まで足を運べないこともあると思う。地域の集会所などで開催すれば、もっと身近に人が集まるのではないかと思う。近くだからこそ行って見ようと思う人もいるのではないか。

(委員) シルバー人材センターに登録されている方、シルバー世代は積極的な方も多いため、ぜひ活用してもらいたい。また、この会議に参加したことで、学びプランの存在を知り、このような組織が有ることを知り、町が積極的に生涯学習を推進しようとしていることがわかった。町も学びプランをもっと P

Rして、町民に知ってもらえるようにしないとイケない。机上だけでなく、地域に出てPRしてもらいたい。昔は向こう3軒両隣というような地域の繋がりが密接だったが、近年は希薄になっている。地域での生涯学習に参加することで、新しく地域の繋がりが生まれて、友達と一緒に参加する等、町も活性化するのではないか。町自身がPRを周知徹底する方策に取り組む必要がある。

(会 長) 資料2の21ページにある11「生涯学習情報冊子・パンフレットの発行」については網掛けの部分は行わないということか。

(事務局) 第2期までは、発行する内容ごとに項目を分けていたが、3「生涯学習情報紙の発行」という業務にまとめている。生涯学習情報冊子の作成については今後も継続して実施する。

(会 長) 前にも意見を出したが、寒川町内の情報をもう少しまとめてほしい。その辺りは福祉分野の方が進んでいるように思う。情報を得るのに、これについては福祉課、これは公民館と分かれているのは不便である。また公民館サークルについても高齢化が進みすぎて、活性化させる意欲があるのか疑問に思う。若い人も入れるように、いっそのこと利用団体を活気のある団体に入れ替えるくらいの熱意がほしい。茅ヶ崎や平塚のまとめ方は気迫を感じる。ぜひ近隣の良い事例を参考にしてほしい。この町は情報をリフレッシュするようにしてほしい。例年どおりの文章、例年どおりの写真を並べて参加したいと思えるのか、生涯学習が活性化することにならない。今、大事なことは子育て中のお母さんがリフレッシュできる場、何もしなくても、そこに行けば息抜きになるような場、助け合う場があれば、この町いい町だなと思えるのではないか。工場を誘致して人を増やすようなことは無理なのだから、少し田舎っぽいところもあるが、この町住みやすいなと思えるようなことをアピールするために、協働、生涯学習のセクションは相当がんばらないとイケない。アパートの家賃が安いから若いときだけ住む町ではなく、寒川にできることは住みやすさをもっとPRするべきだと思う。働き盛りの世代は町に家はあっても外で働いて、家に寝に帰る人が多いかもしれない。奥さんや子どもがこの町住みやすいね、ということになれば、もっと会社に近い街に引っ越したいと思っても、寒川町に住み続けるのではないか。寒川はまだ改善する余地があるし、コンパクトな町だからこそメリットもある。うまくベクトルを合わせれば、短期間でそういう価値を付け加える可能性がある。ハードを造るわけではないから金もかからない。心と情熱があればできること、コスト的にも可能だと思う。ぜひ取り組んで欲しい。

(副会長) 皆様からの意見でもいろいろ出たが、情報発信についてはもっと行った方がいい。手が足りないのであれば、ボランティアをもっと活用してほしい。町の業務によってはボランティアに任せることは適当ではないとのこともあるようだが、シニアのボランティアをもっと活用できる所は活用してほしい。公民館行事はホームページに載っていないものが多い。おもしろそうな行事でも情報が届いていない。広報だけでなく、チラシだけでなく、ポスターだけでなく、もっといろいろな情報発信して、ようやく人に届くのではないか。私もボランティアとして協力できるので、声をかけてほしい。

(委 員) 広報に問題があるのであれば、例えば、キャラクターやロゴマークを作ってプランにある講座は全て広報にマークを付けてはどうか。ひとつのイメージで生涯学習を町民に捉えてもらう。企業は何か売ろうと思えば標語やロゴやイメージ作戦でいく。行政だから真面目にやらないとイケないというのではなく、人間相手なのだからおもしろさがないと興味をひかないのではないか。例えばさむかわ町民大学で単位が集まれば修了証を出すというような工夫はいかがか。ただ町がやっていますというのはどこの町でも変わりが無い。企業は利益を追求することもあるが、行政ももっと工夫をしてはどうか。

	<p>(事務局) 町民大学対象講座は広報にマークを付けている。子ども向けには「さむかわ ゆうゆう学園」として現在もスタンプを押すようにしている。</p> <p>(委員) 大人にも1回参加したら学生証を発行してはどうか。</p> <p>(事務局) 実は発足当初の20年前は10回参加すれば10単位として修了証を出すという方式にもしていた。初めの頃は年に10人くらいの申請があったが、年々減り、いなくなってしまった。自分で記録して申請するという方法も面倒だったのかもしれない。</p> <p>(委員) 次元は低いかも知れないが、参加しやすい工夫、都度見直しも必要だと思う。しばらくぶりにやってみる価値はあるのではないか。あきらめたらまた別の方法を考えてみてはどうか。</p> <p>(委員) 子育て支援センターに来てもらうきっかけ作りのために、コンサートやリトミック教室を開催しているので、広報に掲載した時には注意して読んでいるが、記事が多すぎて見にくい。見るという目的があるから探せるが、そうではない人には紙面の作りがわかりにくいと思う。囲みなどをしてくれると分かりやすいと思う。隣のページにまたがっていることもあり見づらい。</p> <p>(事務局) 広報の催事の紙面については、同様のご意見をよく聞くし、個人的にもそう感じる。広報の担当にも意見を伝えるが、内容も割愛されてしまうことが多い。広報が月1回になってから、情報量が増えてしまい、またそのページから紙面が横書きになり、左ページから右ページに繋がっているためわかりにくい。公民館ごとに分けてくれれば、近くの公民館の講座へ行こうかな、と目に留めてくれる人もいるのではないかと思う。</p> <p>(委員) ページ数を減らして号外にしてもらえると、それだけ手元に残してもらえるのではないか。</p> <p>(委員) やはり予算が絡むことは難しいということではないか。</p> <p>(事務局) 子ども情報紙「すきっぷ」もかつて広報さむかわに掲載されていることと同じなので、無駄であると予算を削られそうになったこともある。子ども達に直接手渡しできるメリットがあり、経費も用紙とインク代だけなので確保したが、結果として大きな成果になっているとは思っている。大人版のものも季刊で発行できるものも作りたいとは考えている。</p> <p>(町民部長) 広報については、他にも町民から意見も多くあり、町長および担当課にも伝える。</p> <p>5 その他 ・近日開催される町事業の紹介 ・委員が所属する団体の自主事業の紹介</p> <p>6 閉会 江島副会長</p>
<p>配付資料</p>	<p>資料1 「寒川 学びプラン」第3期実施計画(案)のパブリックコメント実施結果報告書(案)</p> <p>資料2 「寒川 学びプラン」第3期実施計画(案)</p> <p>資料3 町の生涯学習推進について(平成27年度町生涯学習推進会議における意見から)</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>・鈴木 茂 ・江 島 新 吉</p> <p style="text-align: right;">(平成28年4月25日確定)</p>

